

価値創造のマネジメント・プラットフォーム



BSC XPC アドバイザリーボード・メンバー、
バランス スコアカード研究会副会長、
米国ユニオンバンク シニアバイスプレジデント 南雲 岳彦氏

BSC は、1990 年代に誕生して以来、戦略実行管理を軸とする「マネジメント・システム」の枠組みから更に拡大し、より包括的な「マネジメント全般に関する経営哲学・知識体系」への道を一步一步辿っている。

この発展経緯の中で、BSC は、シックスシグマ、エンタープライズ・リスク・マネジメント、日本経営品質賞、CSR(企業の社会的責任)等の他の経営手法や考え方の統合・融合を推し進める上で強みを有する一方で、経営課題の抽出や課題解決等、幾つかの領域は必ずしも得意ではないということも明らかになってきた。

経営の現場に眼を向けると、様々な経営課題が山積する一方で、上記の他にも株主資本価値経営、知的資本経営、モチベーション・マネジメント等、様々な経営手法が生み出され発展を遂げた結果、重複する領域が顕著となり、経営管理のあり方を巡って、一度整理が必要なタイミングにあるように思われる。つまり、目の前でおきている事象や、採用している経営手法を一旦脇に置き、自社の掲げる目的を達成するためには、①経営全体の統合的な枠組み(プラットフォーム)をどう構築し、②その枠組みの中でどの経営手法を選択し、組み合わせるべきか、そして③どの順番で実行するのか、という整理だ。

日本企業は、従来のようにお仕着せの方法論を個別対応的または教科書的に採用するという、「守」の段階を脱し、よりメタ的な観点から自らマネジメント全般のあり方を問い直すべき「破」ないし「離」のタイミングに向かっているように思う。そうすることが、グローバル経済における日本的経営の強化やイノベーションにも繋がっていくと思う。

そのためには、今まで以上に幅広く経営やイノベーションについて深く考える必要がある。一人では入手できる情報量と内容に限界があるので、領域横断的なネットワーキングへの参加をお勧めしたい。

